

十和田東病院の具体的対応方針（その 2）

医療法人赤心会十和田東病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

高齢化社会が益々進む中、整形外科領域の患者の増加が予想されます。地域社会において骨折後寝たきりの状態になり、その後の家族への負担が大きな社会問題となっております。コロナウイルスの発生により社会活動が制限され、患者も減少しておりましたが、今後は通常の社会活動に戻ることに伴い患者の増加が見込まれる状況にあると考えており、そのためには必要な病床の確保も重要と考えます。現実、最近当院では骨折入院が増えております。

【病床規模の最適化に係る検証】

出生率の低下等で小児の患者の減少が見込まれる中、小児の入院を停止、入院が必要と判断した患児は十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院との連携を強化し、上十三地域の小児医療を行っていきたいと考えております。

病床数は 10 床減らして 50 床での急性期の方針です。

手術件数 令和 4 年度 総数 月平均 28 件（内全麻 21 件）

朝 8 時からの手術をすすめており、状態が良ければ出来るだけ手術当日の入院を進めている。朝 7 時からの診療スタートであるため早朝からの入院を受け入れている。連携先の十和田東クリニックは日曜、祭日も診療のため入院依頼は夜間を除き受け入れている。

医療連携の考え方

【基本方針】

上十三地域において、小児科領域・循環器科領域の外来を中心に地域連携を図り、また整形外科領域においては紹介患者の迅速な手術等を担って地域の医療向上に貢献して行きたいと考えております。

【具体的な医療連携】

小児科領域においては、外来を中心に医療を行い、精査ならびに入院の必要な患児は十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院に紹介しております。整形外科領域においては、紹介元の十和田東クリニックとの連携を密にし、紹介患者の手術等の治療を行い早期退院を目指し、紹介元での治療連携を進めて行きたい。

【その他】

現在まで、コロナワクチン接種に積極的参加し多くの市民に接種を行い入院患者へのコロナワクチン接種にも積極的に関わって参りました。また、発熱外来も小児を中心に大人の診療も行っていました。

今後も地域の医療の向上に勤めて参りたいと考えております。